

(別紙3)

北海道における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告）
（効果的捕獲促進事業）

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ（エゾシカ）
技術名	多雪地域における囲いわなによる捕獲技術
実証地域	留萌・小平町大楸・花岡区域
実証時期	令和6年10月～令和7年3月
実施体制	委託（委託先：株式会社構研エンジニアリング）
事業費	8,056,400円

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

小平町では、許可捕獲による有害鳥獣駆除を毎年実施し、エゾシカの被害低減に取り組んでいるものの、捕獲従事者の不足やエゾシカの主な滞留地点が捕獲の困難な国道沿いの斜面にあるなどの事情から、エゾシカ生息数の減少には至っていないと推察される。そのため、小平町におけるエゾシカの農業被害額は減少傾向になく、エゾシカが関係する交通事故は平成30年以降、毎年10件以上発生している。

そこで、多雪強風地域でも活用できる「わな」による捕獲手法の開発を、令和4年度及び令和5年度に実施したが、エゾシカは周りの環境に合わせて滞留する箇所を変え、移動先が「道路敷地となっている国道沿いの斜面」や「人力で到達することが容易でない奥まった林内」など、捕獲が現実的ではない箇所であったため、発砲や「わな」の設置ができず、有効な対策を講ずることができない状況にあった。

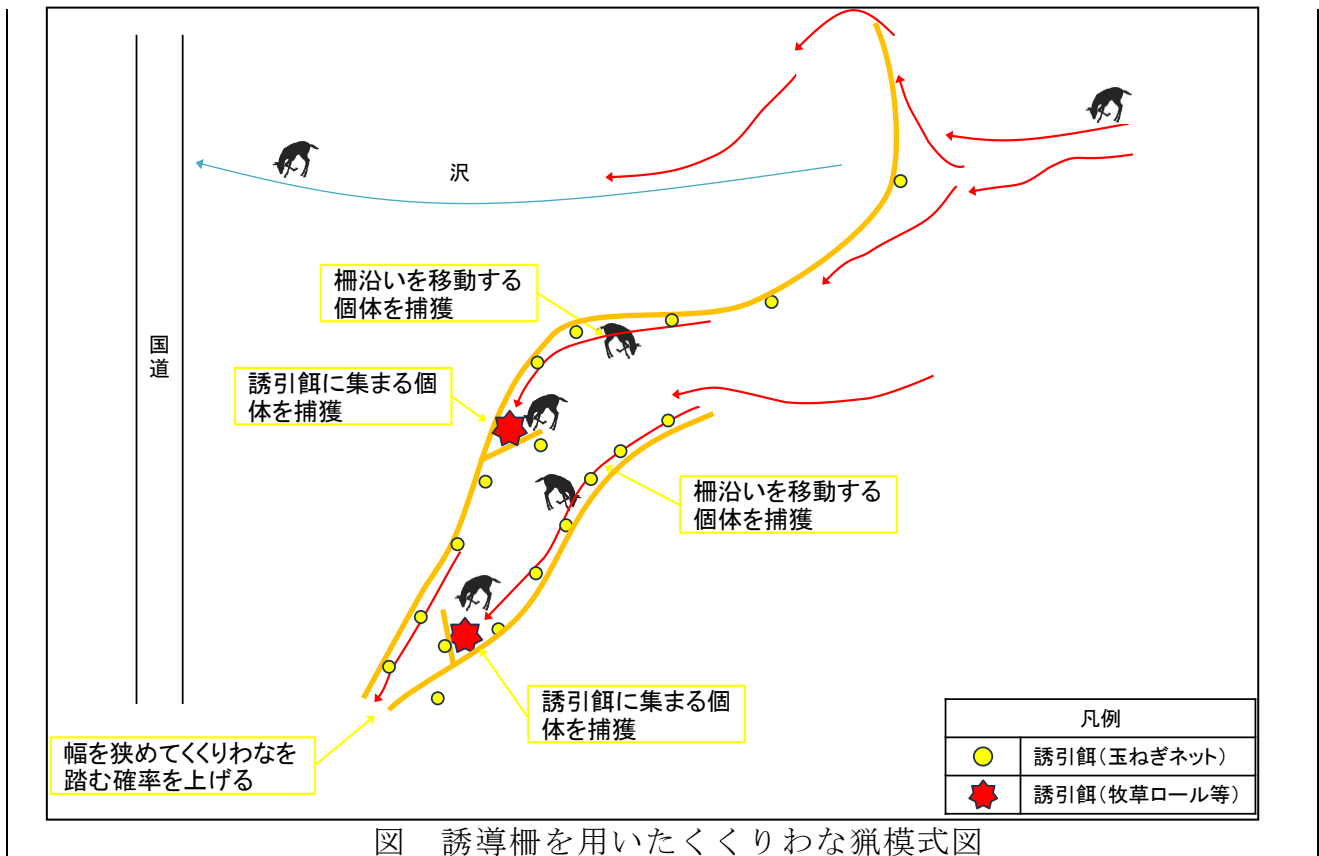
このため、誘導柵及び誘引餌を用いてエゾシカの行動をコントロールし、捕獲のしやすい箇所にエゾシカの高密度地帯を人為的につくる、「捕獲適地の創出方法」についての技術開発を行い、捕獲数の増加と、捕獲手法及び管理手法の選択肢を増やすことでの捕獲従事者の増加を図り、当該地域におけるエゾシカによる農業被害の低減と、エゾシカが起因となる交通事故の低減を目標として事業を実施した。

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 地域実証する技術の目的・目標・具体的な内容・効果等

本地域のエゾシカは12月中旬から2月中旬まで山側に寝床・休息地があり、そこから国道法面に移動し採餌する日周行動をとっているといわれている。

そこで、エゾシカの移動ルート上にネットを張り、移動方向を制限して、ネット内の誘引餌の方へ誘引し、餌付けすることで、ネット内での滞留時間を長くし、くくりわなに掛かる確率を高める試験を実施した（図）。エゾシカを滞留させることで、くくりわなの設置範囲が狭くなり、わな猟に係る見回りの省力化が可能になるかもしれない。この方法により、エゾシカの大量捕獲、省力化技術を検討した。



注1：2を踏まえて、地域実証する目的や必要性、実証の場所や日程、方法、内容、想定される効果等を具体的に記載すること。

注2：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1～2について実施した内容・結果を具体的に記入すること。

4 技術の効果の検証・評価方法/結果

○ 目標達成

ヒグマの出没により捕獲作業を事業途中で中止したため、捕獲目標頭数40頭のところ、実績は8頭と目標頭数には及ばなかったが、わなの稼働総数が55基日に対し、捕獲実績8頭となったことから、CPUEは0.091と高い数値となった。

○ 誘導柵

事業開始前の林内踏査や昨年度事業実施時に確認できたシカ道に沿いつつ、海岸沿いの斜面へのシカ道を遮断するような形状としたほか、柵内を完全には囲わずエゾシカが自由に柵内外を行き来できるようにし、エゾシカの警戒心を高めにくい構造とした結果、柵内において誘導柵沿いを歩く複数の足跡が確認できたことから、誘導柵には一定の誘導効果があったと考えられる。

しかし、柵の資材として使用した防獣ネットが脆弱であったため、強風及び積雪による損壊が多発し、損壊した箇所からもエゾシカが出入りできてしまったことで、柵の滞留効果が薄れてしまった。特に、シカ道を遮断する形で誘導柵が設置された箇所では、エゾシカが強引にネットを突き破って柵内若しくは柵外へ移動しているケースが多く確認された。

より強固な資材により柵を作成し、柵の損壊を防ぐことにより、不必要なエゾシカの出入りを減らすことで、さらなる誘導及び滞留効果が期待できるが、柵の効果向上と設置費用や設置労力はトレードオフの関係となるため、必要な柵の強度や規模について、検討する必要がある。

○ 誘因餌

餌の雪埋もれ防止及び食べにくくすることでの滞留時間の向上が期待できる、玉ねぎネットに餌を入れ木に吊す手法を活用したところ、エゾシカによる採餌が多く確認されたが、餌ごとネットが食い破られることで、餌が全て地面に落ちてしまい、滞留時間の向上については効果がなくなっていた。そのため、エゾシカに食い破られにくい金属製ワイヤー入りの防獣ネットに餌を入れ木に吊したところ、食い破られることがなくなったため、滞留効果が向上した。

地面に直接 150kg の餌を置いた場合と、防獣ネットに 15kg の餌を入れて木に吊した場合、どちらも約 2 日で餌を食べ尽くしていたため、防獣ネットによる給餌方法は、従来の給餌方法と比較しても少ない餌の量で、エゾシカを滞留させることが可能であると考えられた。

また、高い位置で採餌できない仔が親の足下でおこぼれを食べている様子や、後ろ足二足で直立して採餌する個体が確認されたため、木に吊す高さによってもエゾシカの行動や意識に変化が見られることがわかった。

○ 安全管理

地元猟友会が確認しているヒグマの活動時期とはずらして捕獲期間を設定したが、1 月以降にも活動するヒグマが出没し捕獲事業は中止となった。

ただし、誘引餌については、過去にヒグマが食べたと報告のあがっていないルーサンハイを用いたため、ヒグマ出没時にヒグマが誘引餌を食べた痕跡は確認できなかった。

今後は、ヒグマの出没を想定し、ヒグマを捕獲できる体制を構築することや、ヒグマが出没した段階で、わな以外の猟法でも事業を進められるよう検討する必要がある。

注：3 を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する地域実証の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

本手法は本来捕獲できない場所で滞留するエゾシカを捕獲しやすい場所に誘導して捕獲するものであり、今まで捕獲できていなかったエゾシカを捕獲できるようになることでの捕獲数増加を望めるため、本事業で確立した技術を普及することで、全道的な捕獲数の増加に寄与すると考えられる。

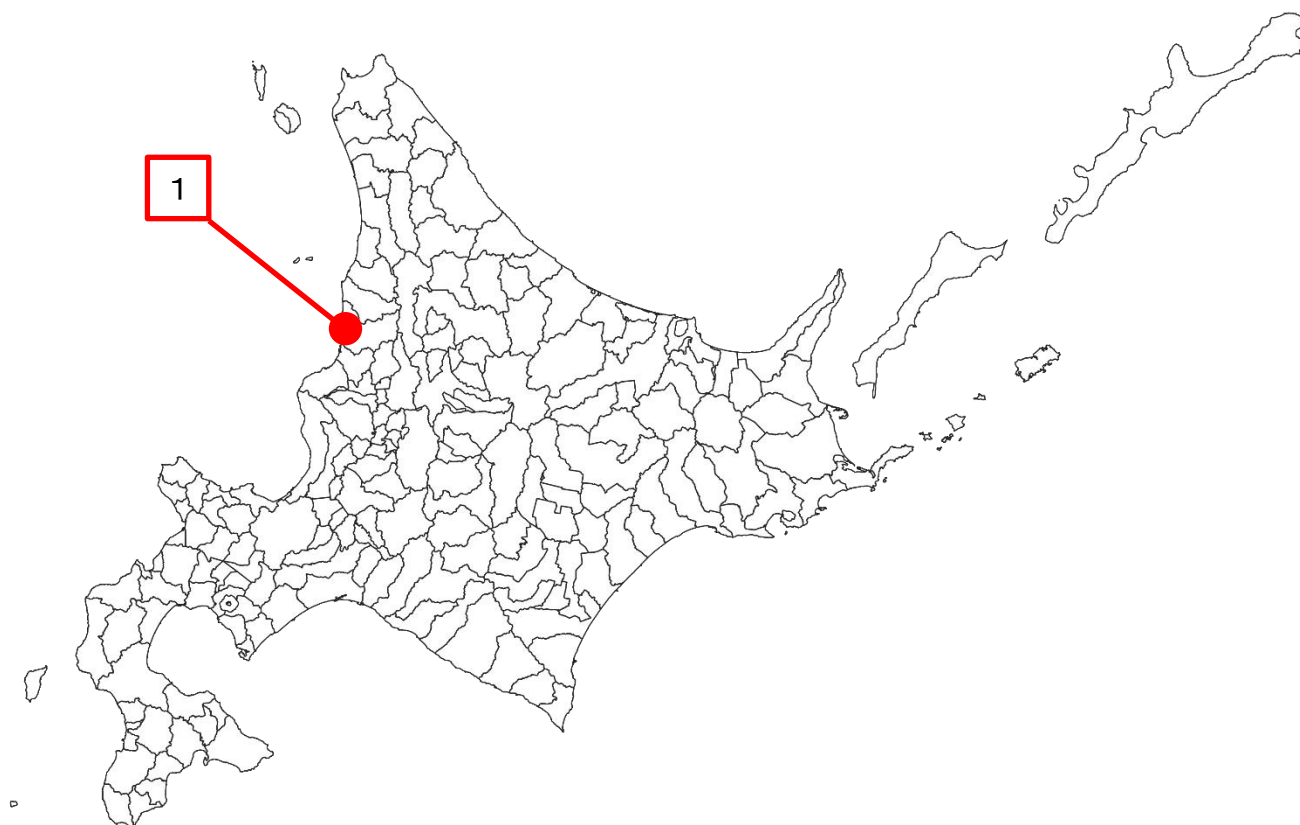
しかし、柵の強度や構造、ヒグマ出没時の体制構築など課題も多く残る結果となったため、捕獲適地の創出方法の検証については、今後も継続して実施する必要がある。

注 1：地域実証する技術の活用・普及方法について記載するとともに、地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。

(別紙3添付)

効果的捕獲促進事業（効果的捕獲モデル・技術開発タイプ）
実施位置図



CC0 Hokkaido

1	留萌・小平町大榎・ 花岡区域
---	-------------------